



ボートが操縦できるのは、練習場内にある専用ボート「ボート」です。ボートには、ボート免許の取得に必要となる各種機器が搭載されています。



実技講習

本番さながらのボートを使った講習で実技試験の対策もバッチリ!!

安全第!! これは車もボートも共通だ

学科講習を終えたら、次は実際にボートに乗っての「実技講習」だ。試験用のボートとはほぼ同じものを使って、常に本番を想定した実践的な講習が受けられる。実技講習で特に重要な項目としてあげられるのは安全確認で、ボートを前進させたり、左右にハンドルを切ったりする時は、必ず「前・後・左右を指差し確認すること」その時に「前後左右よし」と必ず叫ぶことが必ず必要です。ボートに乗って初めて操縦をしてみると、自分が思い描いていた通りに船が動かないことに驚く人も多いはず。慣れるまでは少々時間がかかるが、実技講習が終わったら本番まで乗れるチャンスは無いので、ここでしっかりと慣れておくことが大切です。

1 発航前の点検

発航前の点検作業。船体と操縦席、エンジン、法定備品、をそれぞれ点検。このタイミングでロープワークの試験もやることが多い。

法定備品の点検



信号紅炎!!

あかくみ!!

写真の信号紅炎やあかくみは数ある法定備品のなかでも代表的なものだ。チェックした後は「～よし」の発声も忘れずに行おう。

船体と操縦席の点検



船尾よし!!

船首よし!!

右舷よし!!

左舷よし!!

ビシヤとした船体と、船首・船尾・船体と操縦席の状態を確認。この項目では船首・船尾・船体の有無、イバー、船体の動作確認も行おう。

エンジンの点検



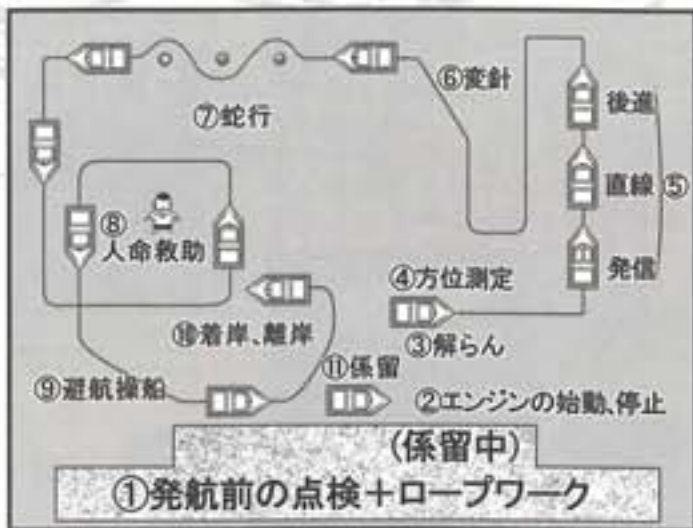
まずは船体の後ろにあるハッチという箇所を開く。この扉を開くと、中にエンジンがセッティングされており、中の確認を行う。

中にあるエンジン全体図。ドコを何の点検をするかは全部覚えるのは大変なので、講習後もテキストにある写真を見て復習だ!



目で確認できないエンジンオイルの点検はレベルゲージを引き抜いて確認。くれぐれもオイルの味まで確認しないように(笑)!

実技試験の実施概要はコレだ!!



①発航前の点検+ロープワーク

3 解らん

船体を係留しているロープを解くことを「解らん」と言う。大体の小型船舶は、船首と船尾の2ヶ所にロープが付いて止まっていることが多い。

船にある「クリート」という部分にロープを引っかけてから解らんと、ロープをそのままにしておくと船外側のプロペラに絡む等のトラブルになってしまふ。



柱に止まっているロープを解いた後、ロープを持ったまま船に乗り込み、家まで船尾に乗り付けておく。

2 エンジンの始動・停止

①の点検作業が無事終わったら、いよいよエンジンの始動だ。こんな些細な場面でも試験官の鋭い目がある。チェック項目は特に忘れやすいので注意!

暖気運転時のチェックポイント



暖気運転時にはリモコンレバー下部のボタンを押しながらレバーを上にする。こうしないとクラッチが入ってボートが前進してしまう!

エンジン始動時のチェックポイント



プロアスイッチというボタンを押してエンジンルーム内を確認した後、エンジンを始動させる。始動させる前にリモコンレバーの中立確認を忘れずに!